

# ECO-FRIENDLY INTERVIEW No.1

ワタミのでんきを3年以上ご利用いただいている株式会社森のエネルギー研究所の菅野明芳取締役は日頃の仕事への想いと「ワタミのでんき」を選んだきっかけ、これからのご自身の取り組みなどを伺いました。

**「木質バイオマスエネルギーを活用し、森林資源と経済の循環を生み出すこと、地域に寄り添い顔の見える関係の中で想いを形にしていきたい」**

—具体的にはどんなお仕事をされているのでしょうか。



その地域、その施設によって、エネルギーの利用の仕方や、使用できる資源が違います。画一的なものではなく、適正な規模や資源利用の仕方はどうかなど、地域の方の立場に立った実践提案型のコンサルティングをしています。

また木質バイオマスは、太陽光などと違い一度機械を入れたら終わりではなく、ずっとメンテナンスや燃料の供給が必要です。10年20年と供給体制が組めるかどうか、木材にしても広葉樹の多い地域、針葉樹の多い地域など、そういったところを地域の方々によく話をして実現可能なモデルを示していくことが、その地域にとってベストなシステムを作っていくことになります。

例えば、福祉施設などでの太陽光と蓄電池とバイオマスボイラーの組み合わせで災害が起こった際に電気も熱も自給できる施設にしようという減災防災の施設づくり、ある自治体では太陽光発電やバイオマス発電を組み合わせ「RE100都市エリア」という地域のモデル都市の開発に関わったりしています。

**「地域電力を支援しているワタミエナジーとは親和性があり、再エネ1%投資という具体的なCO2ゼロへのアクションは響きました」**

元々、ワタミエナジーの小出取締役とはバイオマス活用の業務を通じて15年来のお付き合いになります。2016年に家庭用も含めた電力自由化が始まった際、小出さんがいらっしゃるワタミエナジー様で『再エネの電力を軸にした家庭向け電力小売り事業に参入』というニュースを知り、妻とも相談した上で自宅の電気を切り替えさせてもらいました。電力会社を調べる中で「地域内でエネルギーも経済も循環させたい」という思いで地域電力の立ち上げ支援をしている、というワタミエナジーの取り組みが、「地域に根ざした仕事をする」という私の仕事のスタンスとも親和性が高いなと改めて感じました。

# ECO-FRIENDLY INTERVIEW No.1

—2050年にCO2排出量実質ゼロ」という目標が首相の所信表明でも挙げられましたが、取り組みたいことはありますか？

2050年に私は70歳のお爺さんになっています。

それまでに、きちんと「CO2ゼロ」という目標を達成した上で同じ町内の子供たちに「俺たち爺さん婆さんは、CO2ゼロの社会を創るためにこんな活動を地域でしたんだよ」「あの家の太陽光発電等の再エネ機器、君たちに引き継ぐよ。長く使えよな。そして、次の世代にまたバトンを渡して、いい地域にしていってな」と、誇りをもって語れるような「町の名物じじい」になりたいと思っています。

そのためにも、近々自宅を「自宅に取り付けた太陽光発電+蓄電池で、化石燃料の発電所に頼らず、夜間も含めて再エネの自家消費のみでほぼ賄えるZEH(ゼロエネルギーハウス)」に新築したいと思っています。

周りの一般家庭と同じような量の電気や熱を使う生活をしていても「20年分の電気代を先払いする感覚であれば、太陽光発電+蓄電池を取り付けて全て再エネで電気を自給しても20年で元が取れる」というように考えていますので、自ら実践した上でデータで示したいと考えています。そして、まずは同じ地域の皆さんに電力会社の切り替えという手段も含めて「CO2ゼロの生活に変える行動」を「この暮らしいいなあ、自分たちの家でもできそうだな」と捉えて頂けたら良いな、と思っています。

CO2ゼロという目標を自分の身の回りに落とし込んで考えると、いま自分が住んでいる町内(青梅市河辺町8丁目、約800世帯：1,600人)の全てのお宅がCO2ゼロの暮らしをすることが必要になります。そのためには、化石燃料を使用した時よりも経済的に何らかのメリットが得られる仕組みを作った上で、CO2ゼロの生活に向けてすべての方が進んで取り組むようなお膳立てを行っていくことが必要ではないでしょうか。

すべてのお宅の屋根に太陽光発電や蓄電池を取り付けて経済的メリットを出せるモデルを1軒1軒伝えていく以外に、町内会という組織を活用しながら地域住民が共同で出資する太陽光発電に取り組んではどうかと思っています。年々減っている町内会員も、電気代が安くなる、もしくは停電時に充電させてもらえるなどの魅力があれば町内会への入会のきっかけづくりになるのではないかと考えていたりします。

# ECO-FRIENDLY INTERVIEW No.1

## —お仕事でのビジョンはありますか

学生時代に立てていた目標で、「日本の一次エネルギー消費量の内10%を木質バイオマスで賄う」というものを今でも実現したいと考えています。

現在のバイオマス発電の比率は2.7%ぐらいですが、10%ぐらいになれば、日本はより持続可能なエネルギー消費になっていると考えられます。

省エネも当然必要だけれども木質バイオマスは日本の木材など、日本の森林の成長率のことを考えてもこれぐらいの目安になると思います。太陽光、風力、水力など全ての再生可能エネルギーを使いつつバイオマスが適している所は木質バイオマスで補うイメージです。そうすれば2050年 CO2ゼロというところに向けて見通しが見えるのではないかなと考えています。

## —公私ともに CO2の排出を減らす取り組みをされていくわけですね

あまり大きなことは言えないですが、身近なところで自分の行動もそうですけど地域の周りの方にも気軽に CO2ゼロの行動を起こせるそんなきっかけはぜひ作っていききたいですね。最近では子供達も学校でSDGsを学んでいるので、子供達から「お父さん、うちは年間でどのぐらいの CO2排出しているの？なんでうちは電気自動車じゃないの？」なんていう質問が出て来たら面白いですよ。

そうやってきた時に、こんな選択肢があってこんなことができるよということを準備しておきたいし、身近なところでまずは自分がCO2ゼロの生活を目で見えるようにしておきたいと思います。

